

平成 29 年度
国内旅行業務取扱管理者試験問題

次の注意事項に従って解答してください。(全28ページ)

なお、本試験問題は、平成29年6月1日現在を基準としています。

〔注意事項〕

1. 答は、別の解答用紙（マークシート）に記入してください。
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。
なお、訂正は消しゴムで、きれいに消し、消しくずを残さないでください。
3. 印刷が不鮮明なものや頁の欠落がありましたら取り替えますので、着席したまま手を挙げてください。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
5. **解答用紙（マークシート）は、必ず提出してください。**白紙答案等の場合であっても、持ち帰ることはできません。
6. 解答用紙（マークシート）の記入にあたっては、次の例に従ってください。指示に従わない場合は、採点されません。

(1) 試験地、受験番号及び氏名欄の記入例

〔記入例〕 試験地 北海道 受験番号 00999番 全旅 太郎の場合

平成29年度 国内旅行業務取扱管理者試験 解答用紙

| 試験地 | | | | |
|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 北海道 | 宮城県 | 埼玉県 | 東京都 | 愛知県 |
| <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 大阪府 | 広島県 | 福岡県 | 沖縄県 | |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | |

| 受験番号 |
|-------|
| 00999 |

| | |
|------|----------|
| フリガナ | ゼンリョ タロウ |
| 氏名 | 全旅 太郎 |

(注意事項)

1. 「試験地」欄は該当箇所をマークしてください。「受験番号」欄は数字で記入してください。(記入見本参照)
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。
3. この解答用紙を汚したり折り曲げたりしないでください。
4. 解答用紙は必ず提出してください。持ち帰ることはできません。

(2) 解答欄

次の例にならって、マークで解答してください。

| 良い例 |
|----------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> |

| 悪い例 | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

指示があるまで開いてはいけません。
問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【配 点】

1 旅行業法及びこれに基づく命令

各 4 点×25問

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

各 4 点×25問

3 国内旅行実務

1.～5. 各 2 点×26問

6.～10. 各 4 点×12問

1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の記述から、法第1条「目的」に定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行の安全の確保及び旅行者の利便の増進
- b. 旅行業等を営む者の業務の適正な運営の確保
- c. 旅行業等を営む者の適正な利潤の確保
- d. 旅行業等を営む者についての登録制度の実施

ア. a, d イ. b, c ウ. a, b, d エ. a, b, c, d

(2) 法第2条「定義」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 報酬を得て、旅行者のため、運送等サービスの提供を受けることについて、代理して契約を締結し、媒介をし、又は取次ぎをする行為を行う事業は、旅行業に該当する。
- イ. 報酬を得て、専ら運送サービスを提供する者のため、旅行者に対する運送サービスの提供について、代理して契約を締結する行為を行う事業は、旅行業に該当しない。
- ウ. 報酬を得て、旅行業を営む者のため、運送等サービスを提供する者と契約を締結する行為を行う事業は、旅行業に該当しない。
- エ. 報酬を得て、旅行に関する相談に応ずる行為を行う事業は、旅行業に該当しない。

(3) 報酬を得て、次の行為を事業として行う場合、旅行業の登録を受けなければならないものはどれか。

- ア. 旅館が、自らの宿泊施設を利用して、昼食付きの日帰り入浴プランを旅行者に販売する行為
- イ. バス会社が、自らの行う運送と他人が経営する宿泊施設を利用した1泊2日の旅行を旅行者に販売する行為
- ウ. 観光案内所が、テーマパークの入場チケットの販売に付随して、旅行者のために食事の手配をする行為
- エ. 人材派遣会社が、旅行業者の依頼を受け、企画旅行に同行して旅程管理業務を行う主任の者を派遣する行為

(4) 旅行業等の登録に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 第2種旅行業の新規登録の申請をしようとする者は、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録申請書を提出しなければならない。
- b. 第1種旅行業の新規登録又は更新登録を受けようとする者は、事業の経営上使用する商号があるときは、その商号を記載した申請書を観光庁長官に提出しなければならない。
- c. 地域限定旅行業の登録の有効期間は、登録の日の翌日から起算して5年である。
- d. 第3種旅行者が新たに旅行者代理業を営もうとする者にその旅行業務を取り扱わせるときは、当該旅行者代理業を営もうとする者の氏名又は名称を記載した申請書を観光庁長官に提出しなければならない。

ア. a, b イ. c, d ウ. a, b, c エ. a, b, c, d

(5) 次の記述のうち、旅行業等の登録の拒否事由に該当しないものはどれか。

- ア. 申請前1年以内に旅行業務に関し不正な行為をした者
- イ. 旅行業又は旅行者代理業の登録を取り消され、その取消の日から4年を経過した者
- ウ. 法人であって、その役員が禁錮刑に処せられ、その執行を受けることがなくなった日から5年を経過した者
- エ. 旅行者代理業を営もうとする者であって、その代理する旅行者が2以上であるもの

(6) 変更登録等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第1種旅行者は、その営業所において選任している旅行業務取扱管理者の氏名について変更があったときは、その日から30日以内に、国土交通省令で定める書類を添付して、その旨を観光庁長官に届け出なければならない。
- イ. 第1種旅行者が法人である場合、その代表者の氏名に変更があったときは、その日から30日以内に、国土交通省令で定める書類を添付して、その旨を観光庁長官に届け出なければならない。
- ウ. 第1種旅行者は、業務の範囲を第3種旅行業へ変更しようとするときは、観光庁長官に変更登録申請書を提出しなければならない。
- エ. 第3種旅行業を営もうとする旅行者代理業者は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。

(7) 営業保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第1種旅行業の新規登録を受けた者が供託すべき営業保証金の額は、登録の申請時に添付した書類に記載した旅行業務に関する旅行者との年間取引見込額が5000万円未満である場合にあっては、7000万円である。
- イ. 第3種旅行業の新規登録を受けた者が供託すべき営業保証金の額は、登録の申請時に添付した書類に記載した旅行業務に関する旅行者との年間取引見込額が5000万円未満である場合にあっては、100万円である。
- ウ. 国債証券、地方債証券又は政府がその債務につき保証契約をした有価証券を営業保証金に充てる場合における当該有価証券の価額は、額面金額とする。
- エ. 旅行者は、営業保証金の額を定める国土交通省令の改正があった場合において、その施行の際に供託している営業保証金の額が供託すべきこととなる営業保証金の額に不足することとなるときは、その不足額を追加して供託しなければならない。

(8) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、旅行業務取扱管理者について、旅行業協会が実施する研修を受けさせること等により、その職務に関し必要な知識及び能力の向上を図るよう努めなければならない。
- イ. 旅行者等は、旅行業務を取り扱う者が1人である営業所についても、法第11条の2第1項に規定する旅行業務取扱管理者を選任しなければならない。
- ウ. 旅行者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間は、その営業所において旅行業務に関し旅行者と契約を締結してはならない。
- エ. 旅行者代理業者は、その営業所において本邦外の旅行について旅行業務を取り扱う場合であっても、国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者を、当該営業所の旅行業務取扱管理者として選任することで足りる。

(9) 次の記述のうち、旅行業務取扱管理者の職務として、定められていないものはどれか。

- ア. 法第6条の3第1項の規定による更新登録の申請に関する事項
- イ. 法第12条の2第3項の規定による旅行業約款の掲示及び備置きに関する事項
- ウ. 旅行に関する計画の作成に関する事項
- エ. 旅行に関する苦情の処理に関する事項

(10) 旅行業務の取扱いの料金に関する法第12条第1項の規定について、の中に入る語句の組合せで正しいものはどれか。

法第12条第1項

旅行業者は、①の開始前に、旅行者②する旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）を定め、これをその営業所において③ならない。これを変更するときも、同様とする。

- ア. ①事業 —— ②から収受 —— ③旅行者に見やすいように掲示しなければ
イ. ①旅行 —— ②に請求 —— ③旅行者に見やすいように掲示しなければ
ウ. ①事業 —— ②に請求 —— ③旅行者が閲覧することができるように備え置かなければ
エ. ①旅行 —— ②から収受 —— ③旅行者が閲覧することができるように備え置かなければ

(11) 旅行業約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行者と締結する旅行業務の取扱いに関する契約に関し、旅行業約款を定め、登録行政庁の認可を受けなければならない。
イ. 旅行業者等は、旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
ウ. 旅行業者が、観光庁長官及び消費者庁長官が定めて公示した標準旅行業約款よりも旅行者に有利な旅行業約款を定めた場合は、その約款については、登録行政庁の認可を受けることを要しない。
エ. 旅行業者は、旅行業約款について国土交通省令・内閣府令で定める軽微な変更をしようとする場合は、登録行政庁の認可を受けることを要しない。

(12) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合の説明事項として、定められていないものはどれか。

- ア. 契約に係る旅行業務取扱管理者の氏名に関する事項
イ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価及びその収受の方法
ウ. 責任及び免責に関する事項
エ. 旅行中の損害の補償に関する事項

(13) 旅行業者等が旅行業務に関し旅行者と契約を締結しようとするとき、取引条件の説明にあたって旅行者に交付する書面に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結する場合にあつては、旅程管理業務を行う者の同行の有無を書面に記載しなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行者と旅行に関する相談に応ずる行為に係る旅行業務について契約を締結しようとする場合にあつては、契約の変更及び解除に関する事項を書面に記載しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、対価と引換えに法第12条の5に規定するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を旅行者に交付する場合であっても、書面を交付しなければならない。
- エ. 旅行業者等は、書面の交付に代えて、電磁的方法により、当該書面に記載すべき事項を提供しようとするときは、あらかじめ旅行者に対し、電磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得て提供することができる。

(14) 次の記述のうち、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結したときに交付する書面の記載事項として、定められていないものはどれか。

- ア. 契約申込の年月日
- イ. 旅行に参加する資格を定める場合にあつては、その旨及び当該資格
- ウ. 旅程管理業務を行う者が同行しない場合にあつては、旅行地における企画者との連絡方法
- エ. 旅行の目的地を勘案して、旅行者が取得することが望ましい安全及び衛生に関する情報がある場合にあつては、その旨及び当該情報

(15) 外務員の証明書携帯等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 外務員の証明書の交付を受けた旅行業者等の役員又は使用人は、その営業所内において、旅行業務について取引を行う場合であっても、外務員の証明書を携帯していなければならない。
- イ. 旅行業者等の役員又は使用人は、その旅行業者等のために営業所以外の場所で旅行業務について取引を行うときは、外務員の証明書を携帯していれば、当該証明書を提示することを要しない。
- ウ. 外務員は、旅行者が悪意であったときも、その所属する旅行業者等に代わって、旅行者との旅行業務に関する取引についての一切の裁判外の行為を行う権限を有するものとみなされる。
- エ. 旅行業者等は、勧誘員、販売員、外交員その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者に対し、外務員の証明書を交付する。

(16) 次の記述から、企画旅行に参加する旅行者を募集するための広告の表示事項として、定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 契約の申込方法及び契約の成立に関する事項
- b. 企画旅行の参加者数があらかじめ企画者が定める人員数を下回った場合に当該企画旅行を実施しないこととするときは、その旨及び当該人員数
- c. 旅行中の損害の補償に関する事項
- d. 旅行者が提供を受けることができる運送、宿泊又は食事のサービスの内容に専ら企画旅行の実施のために提供される運送サービスが含まれる場合にあつては、当該運送サービスの内容を勘案して旅行者が取得することが望ましい輸送の安全に関する情報

ア. b, d イ. a, b, c ウ. a, c, d エ. a, b, c, d

(17) 誇大広告の禁止に関する法第12条の8の規定について、の中に入る語句の組合せで正しいものはどれか。

法第12条の8

①は、②について広告をするときは、広告された旅行に関するサービスの内容その他の国土交通省令・内閣府令で定める事項について、著しく事実に相違する表示をし、又は実際のものよりも著しく優良であり、若しくは有利であると人を③のような表示をしてはならない。

- ア. ①旅行者 — ②企画旅行 — ③誤認させる
- イ. ①旅行者等 — ②旅行業務 — ③誤認させる
- ウ. ①旅行者 — ②旅行業務 — ③誘引する
- エ. ①旅行者等 — ②企画旅行 — ③誘引する

(18) 企画旅行の円滑な実施のための措置及び旅程管理業務を行う者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者は、本邦内の旅行を実施する場合にあつては、旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置について、契約の締結の前に旅行者にこれらの措置を講じない旨を説明すれば、旅程管理業務を行わなくてもよい。
- イ. 旅程管理業務に関する実務の経験は、観光庁長官の登録を受けた者が実施する旅程管理業務に関する研修の課程を修了した日から1年以内に1回以上又は3年以内に2回以上の旅程管理業務に従事した経験に限られる。
- ウ. 旅行者は、本邦外の旅行であつて、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合には、代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。
- エ. 旅行に参加する旅行者に同行して、旅程管理業務を行う者として旅行者によって選任される者が複数の場合は、そのすべての者が法第12条の11第1項に規定する旅程管理業務を行う主任の者でなければならない。

(19) 禁止行為に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者等は、その営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受する行為をしてはならない。
- b. 旅行者等は、旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を不当に遅延する行為をしてはならない。
- c. 旅行者等又はその代理人、使用人その他の従業者は、運送サービス（専ら企画旅行の実施のために提供されるものに限る。）を提供する者に対し、輸送の安全の確保を不当に阻害する行為を行ってはならない。
- d. 旅行者等又はその代理人、使用人その他の従業者は、旅行者に対し、旅行地において特定のサービスの提供を受けること又は特定の物品を購入することを強要する行為を行ってはならない。

ア. a, d イ. a, b, c ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(20) 受託契約に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第2種旅行者は、地域限定旅行者の受託旅行者となることができる。
- イ. 旅行者代理業者は、所属旅行者の承諾がある場合に限り、他の旅行者との間で自ら受託契約を締結することができる。
- ウ. 旅行者は、他の旅行者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、受託契約を締結したときは、旅行者代理業の登録を受けなくとも当該受託契約の相手方を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- エ. 旅行者は、他の旅行者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、複数の旅行者と受託契約を締結することができる。

(21) 旅行者代理業者の旅行業務等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者代理業者は、所属旅行者が委託旅行者と締結した受託契約において当該旅行者代理業者を受託旅行者代理業者として定めた場合、当該委託旅行者を代理して企画旅行契約（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を締結することができる。
- イ. 旅行者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行者の氏名又は名称及び旅行者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。
- ウ. 所属旅行者は、旅行者代理業者が旅行業務につき旅行者に加えた損害を賠償する責めに任ずるが、当該所属旅行者がその旅行者代理業者への委託につき相当の注意を払えば、その責任を免れる。
- エ. 登録行政庁は、旅行者代理業者に対し、その行う営業が旅行業であると誤認させ、又は所属旅行者を誤認させないようにするための措置をとるべきことを命ずることができる。

(22) 業務改善命令に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 登録行政庁は、旅行者に対し、旅行業務の取扱いの料金の変更を命ずることができる。
- b. 登録行政庁は、旅行者に対し、旅行業約款を変更することを命ずることができる。
- c. 登録行政庁は、旅行者に対し、企画旅行に係る旅程管理のための措置を確実に実施することを命ずることができる。
- d. 登録行政庁は、旅行者に対し、旅行者に生じた損害を賠償するために必要な金額を担保することができる保険契約を締結することを命ずることができる。

ア. a, d イ. a, b, c ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(23) 登録の取消し等に関する次の記述から、登録の取消事由に該当するもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者等が、登録を受けてから6箇月以内に事業を開始していないと認めるとき。
- b. 旅行者等が、引き続き1年以上事業を行っていないと認めるとき。
- c. 旅行者が、不正の手段により有効期間の更新の登録を受けたとき。
- d. 旅行者等が、旅行業法に基づく命令又はこれらに基づく処分を違反したとき。

ア. a, b イ. c, d ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(24) 旅行業協会の業務に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会は、旅行者及び旅行に関するサービスを提供する者からの旅行者等の取り扱った旅行業務に対する苦情の解決に関する業務を適正かつ確実に実施しなければならない。
- イ. 旅行業協会は、旅行業務に関する取引の公正の確保又は旅行業及び旅行者代理業の健全な発達を図るため必要があると認めるときは、その職員に旅行者等の事務所に立ち入り、業務の状況又は設備、帳簿、書類その他の物件を検査させることができる。
- ウ. 旅行業協会は、旅行業務の適正な運営を確保するための旅行者等に対する指導を適正かつ確実に実施しなければならない。
- エ. 旅行業協会は、旅行業務に関し社員である旅行者又は当該旅行者を所属旅行者とする旅行者代理業者と取引をした旅行者に対し、その取引によって生じた債権に関し弁済をする業務を適正かつ確実に実施しなければならない。

(25) 弁済業務保証金制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会に加入しようとする旅行者は、その加入しようとする日までに、弁済業務保証金に充てるため、弁済業務規約で定める額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- イ. 旅行業協会の保証社員である旅行者の弁済限度額は、当該旅行者が営業保証金の供託の免除の規定の適用がないとしたならば供託すべきこととなる営業保証金の額を下ることができない。
- ウ. 旅行業協会の保証社員又は当該保証社員を所属旅行者とする旅行者代理業者と旅行業務に関し取引をした旅行者は、観光庁長官の指定する弁済業務開始日以後、その取引によって生じた債権に関し、当該保証社員について弁済業務規約で定める弁済限度額の範囲内において、旅行業協会が供託している弁済業務保証金から弁済を受ける権利を有する。
- エ. 旅行業協会が供託している弁済業務保証金から債権の弁済を受ける権利を有する者は、その権利を行使しようとするときは、その債権について登録行政庁の認証を受けなければならない。

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約の部「適用範囲」「用語の定義」「契約の申込み」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 「国内旅行」とは、本邦内のみの旅行をいい、「海外旅行」とは、本邦外の旅行のみをいう。
- イ. 旅行業者が法令に反せず、かつ、旅行者に不利にならない範囲で特約を結んだときは、それが口頭によるものであっても、その特約が約款に優先する。
- ウ. 申込金は、旅行代金又は取消料若しくは違約料の一部として取り扱う。
- エ. 「通信契約」とは、旅行者が電話、郵便、ファクシミリ等の通信手段を用いて契約の申込みを行い、旅行業者の指定する金融機関の口座に旅行代金を振り込むことにより締結する契約をいう。

(2) 募集型企画旅行契約の部「契約締結の拒否」「契約の成立時期」「確定書面」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、業務上の都合のみの理由をもって、契約の締結を拒否することはできない。
- b. 契約は、通信契約の場合を除き、旅行者が提出した所定の申込書を旅行業者が受理した時に成立する。
- c. 旅行業者は、契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙した上で、当該契約書面交付後、旅行開始日の前日（旅行開始日の前日から起算してさかのぼって7日目に当たる日以降に契約の申込みがなされた場合にあつては、旅行開始日）までの当該契約書面に定める日までに、これらの確定状況を記載した書面を交付する。
- d. 確定書面を交付した場合には、旅行業者が手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。

- ア. a, b イ. c, d ウ. a, c, d エ. b, c, d

(3) 募集型企画旅行契約の部「契約内容の変更」「旅行代金の額の変更」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、天災地変その他の旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときは、旅行者にあらかじめ速やかに当該事由が関与し得ないものである理由及び当該事由との因果関係を説明して、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更することがある。ただし、緊急の場合において、やむを得ないときは、変更後に説明する。
- b. 宿泊機関が宿泊サービスの提供を行っているにもかかわらず、部屋の不足が発生したことから、旅行業者が契約内容の一部を変更し、旅行の実施に要する費用が増加した場合には、旅行業者は、当該旅行業者に過失がない場合に限り、その増加した費用の範囲内において旅行代金を増額することができる。
- c. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず当該利用人員が変更になったときは、契約書面に記載したところにより旅行代金の額を変更することがある。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(4) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の交替」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者と契約を締結した旅行者は、旅行業者の承諾を得て、第三者に契約上の地位を譲り渡すことができる。
- b. 旅行者は、契約上の地位を第三者に譲り渡すことについて、旅行業者の承諾を求めようとするときは、旅行業者所定の用紙に所定の事項を記入の上、所定の金額の手数料とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- c. 旅行業者と契約を締結した旅行者が、契約上の地位を第三者に譲り渡すことができるのは、旅行業者の承諾を得た場合であっても、当該旅行者の三親等以内の親族に限られる。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(5) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権」に関する次の記述から、旅行者が旅行開始前に契約を解除するに当たって、取消料の支払いを要しないもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも取消料の支払いを要する期間内の解除とする。）。

- a. 大雪が原因で、契約書面に記載された旅行開始日が変更になったとき。
- b. 旅行業者が旅行者に対し、契約書面に記載した所定の期日までに、確定書面を交付しなかったとき。
- c. 旅行者の母親が死亡したとき。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(6) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権等－旅行開始前の解除」に関する次の記述のうち、旅行業者が契約を解除できないものはどれか（いずれの場合も契約解除に係る旅行者への理由説明を行うものとする。）。

- ア. 旅行者が旅行業者があらかじめ明示した参加旅行者の条件を満たしていないことが判明したとき。
- イ. 旅行者が、契約内容に関し合理的な範囲を超える負担を求めたとき。
- ウ. 日帰りの国内旅行において、旅行開始日の前日に、参加する旅行者の一部が契約を解除したため、旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員を下回ったとき。
- エ. 通信契約を締結した場合であって、旅行者の有するクレジットカードが無効になり、旅行代金等に係る債務の一部又は全部をカード会員規約に従って決済できなくなったとき。

(7) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者が旅行開始後に契約を解除したときは、旅行業者と旅行者との間の契約関係は、将来に向かってのみ消滅し、旅行者が既に提供を受けた旅行サービスに関する旅行業者の債務については、有効な弁済がなされたものとする。
- b. 旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員その他の者による旅行業者の指示への違背、これらの者又は同行する他の旅行者に対する暴行又は脅迫等により団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、旅行業者は、旅行開始後であっても、旅行者に理由を説明して、契約の一部を解除することがある。
- c. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の旅行サービス提供の中止が生じた場合であって、旅行の継続が不可能となったときは、旅行者の承諾を得なければ、契約の一部を解除することができない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(8) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金の払戻し」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも通信契約でないものとする。）。

- a. 旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったことから、旅行業者が旅行開始前に契約を解除したときは、旅行業者は、当該解除の翌日から起算して7日以内に旅行者に対し払い戻すべき金額を払い戻す。
- b. 旅行開始後に、台風の影響で旅行の継続が不可能となり、契約書面に記載のあった旅行終了日を前日に繰り上げる旅行日程の変更が生じたことから、旅行業者が契約の一部を解除した場合において、払い戻すべき金額が生じたときは、旅行業者は、契約書面に記載した旅行終了日の翌日から起算して30日以内に旅行者に対し当該金額を払い戻す。
- c. 旅行開始前に、旅行業者の責に帰すべき事由により契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能となったことから、旅行者が契約を解除した場合において、旅行業者が既に収受している旅行代金を所定の期日までに払い戻したときは、旅行者は、旅行業者に対する損害賠償請求権を行使することはできない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(9) 募集型企画旅行契約の部「団体・グループ契約」「契約責任者」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 同じ行程を同時に旅行する複数の旅行者は、その責任ある代表者を定めて、旅行業者に契約を申し込むことができる。
- b. 旅行業者は、特約を結んだ場合を除き、契約責任者はその団体・グループを構成する旅行者の契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなし、当該団体・グループに係る旅行業務に関する取引は、当該契約責任者との間で行う。
- c. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任したその団体・グループを構成する旅行者を契約責任者とみなす。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(10) 募集型企画旅行契約の部「旅程管理」「添乗員等の業務」「保護措置」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅程管理の措置を講じたにもかかわらず、契約の内容を変更せざるを得ない場合であって、旅行日程を変更するときは、変更後の旅行日程が当初の旅行日程の趣旨にかなうものとなるよう努め、契約内容の変更を最小限にとどめるよう努力しなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行の内容により添乗員その他の者を同行させて旅程管理業務その他当該旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務の全部又は一部を行わせることがある。
- ウ. 添乗員その他の者が旅程管理業務その他旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務に従事する時間帯は、原則として7時から22時までである。
- エ. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、疾病、傷害等により保護を要する状態にあると認めるときは、必要な措置を講ずることがある。

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の責任」に関する次の記述から、誤っているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者が過失により旅行者に損害を与えたときは、損害発生の日から起算して2年以内に旅行者から旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責に任じる。
- b. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配代行者が過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害を賠償する責に任じない。
- c. 旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者が過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、国内旅行にあつては損害発生の日から起算して21日以内に旅行者から旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責に任じる。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(12) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者が契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、確定書面の交付を要しないときは、契約書面に記載するところによる。
- イ. 旅行業者は、企画書面において旅行代金の内訳として企画料金の金額を明示した場合は、当該金額を契約書面において明示する。この場合、旅行業者は、宿泊を伴う国内旅行では、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって20日目に当たる日より前に旅行者が自己の都合で契約を解除したときは、企画料金に相当する金額を取消料として収受することができる。
- ウ. 契約責任者は、旅行業者が定める日までに、その団体・グループを構成する旅行者の名簿を旅行業者に提出しなければならない。
- エ. 旅行業者は、契約責任者がその団体・グループを構成する旅行者に対して現に負い、又は将来負うことが予測される債務又は義務についても責任を負う。

(13) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行者に対し企画書面を交付することにより、契約書面の交付に代えることができる。
- イ. 旅行業者は、契約責任者と契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約の締結を承諾することがある。この場合には、契約は、旅行業者が契約の締結を承諾した時に成立するものとし、契約責任者に対し契約書面の交付を要しない。
- ウ. 旅行者は、契約が締結された後は、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更するよう求めることができない。
- エ. 旅行を実施するに当たり利用する運送機関について適用を受ける運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、当該旅行の企画書面の交付の際に明示した時点において有効なものとして公示されている適用運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額される場合においては、旅行業者は、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって15日目に当たる日より前に旅行者にその旨を通知し、その増額される金額の範囲内で旅行代金の額を増加することができる。

(14) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか（選択肢ア. イ. の変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。）。

- ア. 旅行業者又は手配代行者の明らかな過失により契約書面に記載した契約内容の重要な変更が生じた場合において、旅行業者は、旅行代金に約款に記載された率を乗じた額以上の変更補償金を旅行者に支払う。
- イ. 旅行業者は、旅行者からの契約内容に重要な変更があった旨の申出及び変更補償金の請求があった場合に限り、これを支払う。
- ウ. 旅行業者が支払うべき変更補償金の額は、旅行者1名に対して1企画旅行につき旅行代金に10%を乗じた額をもって限度とする。
- エ. 変更補償金を支払った後に、当該変更について旅行業者に責任が発生することが明らかになった場合には、旅行者は当該変更に係る変更補償金を旅行業者に返還しなければならない。この場合、旅行業者は、支払うべき損害賠償金の額と旅行者が返還すべき変更補償金の額とを相殺した残額を支払う。

(15) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、変更補償金の支払いを要するものはどれか（いずれも変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。）。

- ア. 確定書面では「A旅館」に宿泊と記載していたが、A旅館が自然災害の発生で休業になったため、契約書面で利用予定として記載した「B旅館」に変更となったとき。
- イ. 確定書面では「Aホテル」に宿泊と記載していたが、Aホテルの過剰予約受付により、Aホテルより上位クラスの「Bホテル」に変更となったとき。
- ウ. 確定書面では「羽田空港に帰着し解散」と記載していたが、強風のため羽田空港に航空機が着陸できず、「成田空港に帰着し解散」に変更となったとき。
- エ. 目的地に向かう列車の大幅な遅延により、契約書面に記載した観光施設に入場できなかったとき。

(16) 募集型企画旅行契約の部「特別補償」「特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、その責任が生ずるか否かを問わず、特別補償規程で定めるところにより、旅行者が旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- イ. 添乗員が空港で旅行の解散を告げた後、当該旅行に参加していた旅行者が空港ビル内の階段で足を踏み外し、傷害を被り入院した場合、旅行業者は、特別補償規程による入院見舞金を支払わない。
- ウ. 旅行者が離脱及び復帰の予定日時をあらかじめ旅行業者に届け出ることなく離脱し、その離脱中に傷害を被り入院した場合、旅行業者は、特別補償規程による入院見舞金を支払う。
- エ. 旅行業者の募集型企画旅行参加中の旅行者を対象として、別途の旅行代金を収受して当該旅行業者が実施する募集型企画旅行については、主たる募集型企画旅行契約の内容の一部として取り扱う。

(17) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償規程」に関する次の記述から、旅行業者が入院見舞金又は通院見舞金の支払いを要するもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも旅行者が国内企画旅行参加中に被った傷害とし、また、旅行業者が入院見舞金又は通院見舞金の支払いを要する場合において、それ以外に支払うべき補償金等はないものとする。）。

- a. 自由行動日に乗車した路線バスの事故で負った怪我による7日間の通院
- b. 法令で指定する立入禁止区域であることを知りながら無断で立ち入り、落石事故で負った怪我による6日間の入院
- c. 旅館の夕食で出された天然ふぐ料理のふぐ毒を原因とする食物中毒による3日間の入院
- d. 公道において、レンタルの自転車でサイクリング中に、ハンドル操作を誤り転倒して負った怪我による3日間の通院

- ア. a, d イ. b, c ウ. a, c, d エ. a, b, c, d

(18) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- イ. 旅行業者が旅行者から依頼のあった宿泊機関の手配を善良な管理者の注意をもって行ったときは、満員のため当該宿泊機関との間で宿泊サービスの提供をする契約を締結できなかった場合であっても、旅行者は、旅行業者に対し、所定の旅行業務取扱料金を支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配の全部又は一部を他の旅行業者、手配を業として行う者その他の補助者に代行させることができない。
- エ. 旅行業者は、運送サービス又は宿泊サービスの手配のみを目的とする契約であって旅行代金と引換えに当該旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するものについては、口頭による申込みを受け付けることがある。

(19) 旅行開始後、旅行者の都合により手配旅行契約を解除した場合において、旅行業者が旅行者に払い戻すべき金額として、正しいものはどれか（旅行代金は全額収受済とする。）。

| | |
|--|----------|
| ● 旅行サービスに係る運送・宿泊機関等に支払う費用の総額 | 100,000円 |
| ● 旅行業務取扱料金（変更手数料及び取消手数料を除く。） | 3,000円 |
| ● 取消手数料 | 1,000円 |
| ● 旅行者が既に提供を受けた旅行サービスの対価 | 40,000円 |
| ● 旅行者がいまだ提供を受けていない旅行サービスに係る運送・宿泊機関等に支払う取消料・違約料 | 10,000円 |

ア. 46,000円 イ. 49,000円 ウ. 60,000円 エ. 63,000円

(20) 旅行相談契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、申込書の提出を受けることなく電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の申込みを受け付けることがある。この場合において、契約は、旅行業者が契約の締結を承諾した時に成立するものとする。
- イ. 旅行業者が旅行者の委託により、相談料金を収受することを約して、旅行地及び運送・宿泊機関等に関する情報提供のみを行う業務は、旅行相談契約には該当しない。
- ウ. 旅行業者は、旅行者の相談内容が公序良俗に反し、若しくは旅行地において施行されている法令に違反するおそれがあるものであるときは、契約の締結に応じないことがある。
- エ. 旅行業者が作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、満員等の事由により、運送・宿泊機関等との間で当該機関が提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受ける契約を旅行者が締結できなかったとしても、旅行業者はその責任を負わない。

2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. バス会社は、運送契約の成立後において、契約責任者が運送申込書に記載した事項を当初と著しく相違して変更しようとする場合は、その変更を承諾しないことがある。
- イ. バス会社は、自動車の故障その他バス会社の責に帰すべき事由により、運行を中止したときであって、バス会社の負担において前途の運送の継続又はこれに代わる相当の手段を提供した場合において、旅客がこれを利用したときには、運賃及び料金の払戻しをしない。
- ウ. バス会社は、旅行業者から旅客の運送の申込みがあった場合には、当該旅行業者と旅客又は契約責任者の関係を、企画旅行、手配旅行の区分により明確にするように求める。
- エ. バス会社は、車両の故障その他緊急やむを得ない事由により、契約された運送を行い得ない場合は、契約責任者に速やかに当該事由を説明すれば、運送契約の内容を変更することができる。

3. 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款（フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. フェリー会社は、乗船券の通用期間について、片道の乗船距離が200キロメートル以上400キロメートル未満の片道券にあっては、指定便に係るものを除き、発売当日を含めて4日間以上の期間を定めて、これを券面に記載する。
- イ. フェリー会社は、小児で付添人のない場合は、小学校に就学していても旅客の運送契約の申込みを拒絶する。
- ウ. 運賃及び料金に変更された場合において、その変更前にフェリー会社が発行した乗船券は、その通用期間内に限り、有効とする。
- エ. 旅客が疾病その他旅客の一身に関する不可抗力により、乗船することを延期する場合は、フェリー会社は、乗船券の未使用区間について、7日間を限度として、その通用期間を延長する取扱いに応じる。

4. 国内旅客運送約款（全日本空輸）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 航空券で予約事項に搭乗予定便が含まれないものの有効期間は、航空会社が特定の旅客運賃を適用する航空券について別段の定めをした場合を除き、航空券の発行の日及びその翌日から起算して60日間である。
- イ. 航空会社は、身体障がい旅客を補助するために、当該旅客が同伴する盲導犬、介助犬及び聴導犬の機内への持込みを認める。
- ウ. 航空会社は、受託手荷物をその旅客の搭乗する航空機で運送するが、搭載量の関係その他やむを得ない事由があるときは、当該手荷物の搭載可能な航空機または他の輸送機関によって運送することがある。
- エ. 12歳以上の旅客に同伴された座席を使用しない3歳未満の旅客（幼児）については、無料手荷物許容量の適用は受けず、当該幼児の手荷物は、同伴する旅客の手荷物とみなす。

5. 旅客鉄道会社（JR）の旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 旅客の運送等の契約は、その成立について別段の意思表示があった場合を除き、旅客等が所定の運賃・料金を支払い、乗車券類等その契約に関する証票の交付を受けた時に成立する。
- イ. 期間の計算をする場合は、その初日を算入して計算し、期間の初日は、時間の長短にかかわらず、1日として計算する。
- ウ. 「旅行開始」とは、旅客が旅行を開始する駅において、乗車券の改札を受けて入場することをいう。ただし、駅員無配置駅から旅客が乗車する場合は、その乗車することをいう。
- エ. 団体旅客の無賃扱人員は、旅客運賃のみに適用される。

6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. ホテル（旅館）は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の所定の時刻、又はあらかじめ明示された到着予定時刻を一定の時間経過した時刻になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがある。
- イ. ホテル（旅館）が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受ける。
- ウ. 宿泊客が、宿泊中に当初の申込み時の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、ホテル（旅館）は、その申し出がなされた時点で当初の宿泊契約が継続されたものとして処理する。
- エ. 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品がホテル（旅館）に置き忘れられていた場合において、その所有者が判明しないときは、ホテル（旅館）は、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届ける。

3 国内旅行実務

1. 以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 約7000株の牡丹の花が有名で、四季の草花の美しさから“花の御寺”とも呼ばれ、懸造り（舞台造）の本堂と10mを超える観音立像で知られる奈良県の寺院は、次のうちどれか。

ア. 長谷寺 イ. 寂光院 ウ. 金峯山寺 エ. 妙心寺

(2) 五穀豊穰・商売繁盛の神様として知られる宇迦之御魂大神（うかのみたまのおおかみ）を主祭神として祀り、千本鳥居と呼ばれる朱色の鳥居が林立する境内の光景が外国人観光客にも人気となった京都府にある神社は、次のうちどれか。

ア. 熱田神宮 イ. 春日大社 ウ. 伏見稲荷大社 エ. 平安神宮

(3) 平家伝説の残る秘境“祖谷”にある原始的なつり橋で、足元から見える水面がスリル満点の橋は、次のうちどれか。

ア. かずら橋 イ. 猿橋 ウ. 回顧の吊橋 エ. 谷瀬の吊り橋

(4) 五ヶ瀬川の上流域沿いに断崖がそそり立つ景勝地で、付近には日本の滝百選のひとつである「真名井の滝」や神話にゆかりのある「鬼八の力石」などが見られる峡谷は、次のうちどれか。

ア. 九頭竜峡 イ. 高千穂峡 ウ. 天人峡 エ. 龍王峡

(5) 西ノ島、中ノ島、知夫里島、島後の4つの島と約180の小島で形成され、国賀海岸やローソク島などの海岸美や、後醍醐天皇の行在所跡などの史跡で知られる島は、次のうちどれか。

ア. 隠岐諸島 イ. 佐渡島 ウ. 壱岐島 エ. 対馬

(6) 古くから交通の要衝として栄え、俳聖・松尾芭蕉の生誕地として、また、忍者のふるさととしても知られる城下町は、次のうちどれか。

ア. 赤穂 イ. 伊賀上野 ウ. 近江八幡 エ. 甲賀

(7) 山形県をほぼ南北に貫く急流で、古口港から草薙港などの舟下りでも知られ、その風光明媚な姿を題材に、正岡子規や斎藤茂吉らの俳人・歌人にも詠（うた）われた川は、次のうちどれか。

ア. 阿武隈川 イ. 球磨川 ウ. 北上川 エ. 最上川

(8) 世界の名画「モナ・リザ」「ゲルニカ」などを実物と同じ大きさに陶板に再現していることでも有名な徳島県鳴門市にある美術館は、次のうちどれか。

ア. 上原近代美術館 イ. 礪山美術館 ウ. 大塚国際美術館 エ. 本間美術館

2. 次の文章を読み、以下の各設問について該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

日本国内には優れた景色を持つ数々の観光地が存在するが、一般に“日本三景”と呼ばれる景勝地には、(a)松島、(b)天橋立、(c)厳島(宮島)が数えられ、いずれも日本を代表する風光明媚な海や海岸の風景で知られている。

その起源は必ずしも明確ではないものもあるが、日本でも屈指であることを意味する“日本三大〇〇”や“日本三〇〇”といった名数で表現される観光地が多い。例えば、特に美しい景色を持つ庭園とされる“日本三名園”と呼ばれるものには、偕楽園、(d)兼六園、(e)後楽園が挙げられているほか、とりわけ景観の優れた滝とされる“日本三名瀑”としては、華厳の滝、袋田の滝、(f)那智の滝が挙げられている。

(1) 下線(a)と同じ都道府県にある温泉は、次のうちどれか。

ア. 玉川温泉 イ. あつみ温泉 ウ. 志戸平温泉 エ. 秋保温泉

(2) 下線(b)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 兵庫県にある国の特別名勝で、日本海の宮津湾に位置している。
- イ. 全長約3.6kmの砂嘴(砂州)でできた砂浜に松が茂る珍しい地形で知られる。
- ウ. 日本海に突き出た半島に海食崖「蘇洞門(そとも)」の景勝地が見られる。
- エ. 日本一の高さを誇る灯台があり、ウミネコの繁殖地としても知られる。

(3) 下線(c)にある厳島神社に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 平安時代の寝殿造りの建築美で知られる。
- イ. 平清盛の援助を得て、今日のような海上社殿が造営された。
- ウ. 満潮時には海に浮かぶように見える大鳥居で知られる。
- エ. 社殿の南側には春日山原始林が広がっている。

(4) 下線(d)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 金沢市中心に位置し、加賀歴代藩主によってつくられた。
- イ. 詩人・作家の島崎藤村の「千曲川旅情の歌」で知られ、園内に藤村記念館がある。
- ウ. 二本脚の“微軫灯籠(ことじとうろう)”の景色で知られている。
- エ. 冬期には雪害から樹木を守るための“雪吊り”が見られる。

(5) 下線(e)と同じ都道府県にある高原として正しいものは、次のうちどれか。

ア. 霧降高原 イ. 蓼科高原 ウ. 蒜山高原 エ. 杵水高原

(6) 下線(f)と同じ都道府県にある観光地として誤っているものは、次のうちどれか。

ア. 生駒山 イ. 青岸渡寺 ウ. 潮岬 エ. 金剛峯寺

3. 日本国内における国立公園・世界遺産に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 国立公園に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

ア. 「足摺宇和海国立公園」は、四国南西部の海岸部と内陸部の山々からなる変化に富んだ景観が特長で、区域内には足摺岬や竜串などがある。

イ. 「雲仙天草国立公園」は、湯けむり漂う火山景観と島々が連なる海洋景観が特長で、区域内には雲仙岳や高舞登山などがある。

ウ. 「釧路湿原国立公園」は、日本の最東北端に位置し、火山活動や流水などによって形成された険しく雄大な景観が特長で、区域内には羅臼岳やカムイワッカ湯の滝などがある。

エ. 「やんばる国立公園」は、沖縄島北部に位置し、国内最大級の亜熱帯照葉樹林、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林、固有動植物・希少動植物が生息する多様な自然環境が特長で、区域内には茅打バンタや大石林山などがある。

(2) サンゴ礁・干潟・マングローブなどの多様な自然環境、独特な生態系の発達、美しい海域景観などを有することから、2017年3月に34番目の国立公園に指定され、徳之島・与論島・喜界島・沖永良部島など、8つの有人島とその周辺の無人島から構成される島々の総称名として正しいものは、次のうちどれか。

ア. 奄美群島 イ. 先島諸島 ウ. 五島列島 エ. 大東諸島

(3) 世界遺産（文化遺産）の「日光の社寺」の構成資産について、東照宮のほかに登録されている社寺として、正しいもののみをすべて選んでいるものは、次のうちどれか。

〈構成資産〉 a. 法起寺 b. 二荒山神社 c. 輪王寺 d. 賀茂別雷神社

ア. a, b イ. b, c ウ. a, b, c エ. a, c, d

4. 以下の各設問の行程について、前後に最も近い観光地を、選択肢の中からそれぞれ1つ選んで を埋め、モデルコースを完成させなさい。

(1) 大津駅 — 多賀大社 — 長浜港 — — 長浜駅

ア. 生口島 イ. 仙酔島 ウ. 竹生島 エ. 答志島

(2) 米沢駅 — 喜多方 — 会津若松 — — 郡山駅

ア. 芦ノ牧温泉 イ. かみのやま温泉 ウ. 花巻温泉 エ. 法師温泉

(3) 松山空港 — 道後温泉 — 瀬戸内しまなみ海道 — — 福山駅

ア. 岩国 イ. 尾道 ウ. 倉敷 エ. 屋島

(4) 網走駅 — 北海道立北方民族博物館 — — 知床観光船乗船 —
— ウトロ温泉 (泊)

ア. サロベツ原生花園 イ. 立待岬 ウ. 有珠山 エ. オシンコシンの滝

(5) 立山駅 — 称名滝 — 大観峰 — — 信濃大町駅

ア. 野尻湖 イ. 榛名湖 ウ. 浜名湖 エ. 黒部湖

5. 以下の各設問の組合せについて、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の温泉と観光地の組合せのうち、その所在地がすべて同じ都道府県にあるものはどれか。

| | | | | |
|----------|---|------------|---|--------|
| ア. 瀬波温泉 | — | 彌彦 (弥彦) 神社 | — | 赤目四十八滝 |
| イ. 玉造温泉 | — | 出雲大社 | — | 三瓶山 |
| ウ. 登別温泉 | — | 恵林寺 | — | 風蓮湖 |
| エ. 湯河原温泉 | — | 修禅寺 | — | 丹沢山 |

(2) 次の観光地の組合せのうち、その所在地がすべて同じ都道府県にあるものはどれか。

| | | | | |
|--------|---|--------|---|--------|
| ア. 金華山 | — | 上杉神社 | — | 瑞鳳殿 |
| イ. 美幌峠 | — | 大沼公園 | — | 小岩井農場 |
| ウ. 辺戸岬 | — | 識名園 | — | 美ら海水族館 |
| エ. 弓ヶ浜 | — | 三徳山三佛寺 | — | 足立美術館 |

(3) 次の郷土料理・名物と観光地の組合せのうち、同じ都道府県でないものはどれか。

- | | | |
|-----------|----|--------|
| ア. 三輪そうめん | —— | 唐招提寺 |
| イ. 安倍川もち | —— | 久能山東照宮 |
| ウ. 皿鉢料理 | —— | 熊野磨崖仏 |
| エ. しっぽく料理 | —— | 大浦天主堂 |

(4) 次の県で開催される祭り・行事と開催月の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- | | | |
|-------------------|----|-----|
| ア. 山口県：先帝祭 | —— | 5月 |
| イ. 秋田県：竿燈まつり | —— | 8月 |
| ウ. 富山県：おわら風の盆（本祭） | —— | 9月 |
| エ. 福岡県：博多どんたく | —— | 10月 |

6. 貸切バスによる運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の行程（日帰り）で貸切バスを利用するときの運賃について、各設問に該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(注1) 「一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について（平成26年3月26日付 関東運輸局長公示）」によるものとする。

(注2) この運行に係る料金は生じないものとする。

〈行程〉（日帰り）

- 走行時間の合計は2時間15分
- 実車距離は31キロ
なお、「実車距離」とは、旅客の最初の乗車から最後の降車までの間に走行する距離をいい、回送距離は含まない。
- 回送距離の合計は20キロ

① この行程における時間制運賃を求めるための時間のうち、正しいものはどれか。

- ア. 2時間分の時間制運賃が必要である。
- イ. 3時間分の時間制運賃が必要である。
- ウ. 4時間分の時間制運賃が必要である。
- エ. 5時間分の時間制運賃が必要である。

② この行程におけるキロ制運賃を求めるための走行距離のうち、正しいものはどれか。

- ア. 30キロ分のキロ制運賃が必要である。
- イ. 40キロ分のキロ制運賃が必要である。
- ウ. 50キロ分のキロ制運賃が必要である。
- エ. 60キロ分のキロ制運賃が必要である。

(2) 貸切バスによる運送に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注)「一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款」「一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について(平成26年3月26日付 関東運輸局長公示)」によるものとする。

- ア. 「配車日が8月1日、1台120,000円で契約した貸切バス1台」の運送契約を契約責任者の都合で7月23日に解除した場合、バス会社は、24,000円の違約料を申し受けることができる。
- イ. 下限額を所定の運賃とする貸切バスの運行において、運行当日、契約責任者の都合により運送申込書に記載した終着予定時刻より1時間延着したため、所定の運賃に変更が生じた。精算の結果、その精算した運賃が、所定の運賃を超えることとなった場合であっても、バス会社は、運賃の追徴の措置を講じることはできない。
- ウ. バス会社は、ガイド料、有料道路利用料、航送料、駐車料、乗務員の宿泊費等当該運送に関連する費用について、契約責任者の負担とすることができる。
- エ. 法令により交替運転者の配置が義務付けられる場合、その他、交替運転者の配置について運送申込者と合意した場合には、バス会社は、交替運転者配置料金の上限額及び下限額の範囲内で計算した額の交替運転者配置料金を収受することができる。

7. 旅館の宿泊に関する次の記述のうち、資料に基づき、正しいものを1つ選びなさい。

(注1)「モデル宿泊約款」によるものとする。

(注2)消費税等諸税の計算は行わないものとする。

(注3) 選択肢イ. エ. は、サービス料の計算を行わないものとする。また、選択肢エ. は、旅館が客室の延長使用に応じたものとする。

(注4) この旅館は、宿泊契約が成立したとき、指定期日までの申込金の支払いを求め、宿泊客はこれを履行するものとする。よって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務があるものとする。

〈資料〉

この旅館は、以下のとおりに定めている。

- 基本宿泊料：大人1人あたり1泊2食付10,000円
- サービス料：10%
- 室料相当額：基本宿泊料の70%
- チェックアウト：午前10時

- ア. 大人1人が1泊するとき、旅館は申込金を10,000円とすることができる。
- イ. 小学生が子供用食事と寝具の提供を受けたときの子供料金は1人7,000円である。
- ウ. 違約金は、基本宿泊料10,000円にサービス料1,000円を合算した11,000円に対して計算する。
- エ. 客室を午後2時まで延長使用したときの時間外追加料金は3,000円である。

8. フェリーによる運送に関する次の設問について、該当する答を、選択肢の中から1つ選びなさい。

(注1) 「海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款」(フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款)によるものとする。

(注2) 年齢は乗船日現在とする。

(注3) 当該フェリーの指定制1等船室の座席には小児運賃・料金の設定があるものとする。

大人2人(自動車の運転者1人を含む)、小学生1人、3歳の小児1人が、自動車1台でフェリーの指定制1等船室の座席を使用する場合に必要な運賃・料金の組合せのうち、正しいものはどれか。なお、全員が指定制1等船室の座席を1人で使用するものとする。

- ア. 大人1人分、小児2人分、自動車1台分、大人1人分の2等運賃の額との差額運賃・料金
- イ. 大人1人分、小児1人分、自動車1台分、大人1人分の2等運賃の額との差額運賃・料金
- ウ. 大人2人分、小児2人分、自動車1台分
- エ. 大人2人分、小児1人分、自動車1台分

9. 航空による運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 全日本空輸の往復運賃及び往復運賃が適用された航空券(国内線の同一区間を往復)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注1) 本設問における座席予約の変更・取り消し、航空券の払い戻しは、旅客の都合によるものとし、それらの申出は、航空会社の事業所の営業時間内になされるものとする。

(注2) 航空券の払い戻しは、当該航空券の払戻期間内になされるものとする。

(注3) この航空券は、往復とも座席の予約がなされているものとする。

- ア. 往路の搭乗後、当該航空券を払い戻す場合、既に搭乗した往路は片道運賃が適用される。
- イ. 往路の搭乗後、復路の搭乗予定便の出発予定時刻までであれば、座席等に余裕がない場合を除き、復路の座席の予約を変更することができる。
- ウ. 往路の搭乗予定便の出発予定時刻までに、すべての座席の予約を取り消し、当該航空券を払い戻す場合、1区間分の払戻手数料が必要である。
- エ. 往路の搭乗予定便の出発予定時刻までに、すべての座席の予約を取り消した場合、当該航空券の有効期間内であって往復運賃が適用される期間であれば、当該航空券を利用して搭乗することができる。

(2) 全日本空輸による国内航空運送に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) 年齢は搭乗日現在とする。

- ア. 小児運賃の払戻手数料は、大人と同額である。
- イ. 大人1名が3歳未満の幼児2名を同伴する場合、大人1名分に加えて、幼児2名分又は幼児1名分の航空券を購入する必要がある。
- ウ. 予約変更ができない航空券の取消手数料は、運賃種別にかかわらず同額である。
- エ. 航空会社は、1旅客に対して2つ以上の予約がされており、かつ、旅客が予約のすべてに搭乗すると合理的に考えられないと判断した場合、当該旅客の予約の全部又は一部を取り消すことができる。

10. 旅客鉄道会社（JR）に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 旅客鉄道会社（JR）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

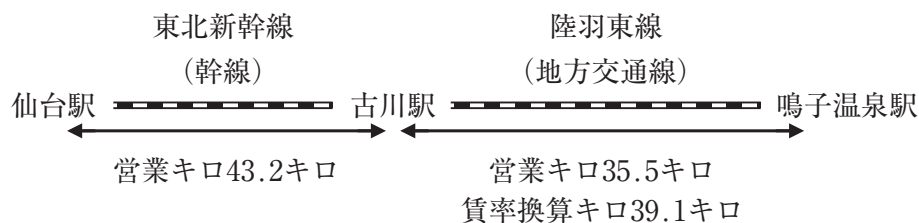
- ア. 自由席特急券は、券面に表示された有効期間開始日のみ有効である。
- イ. 新幹線の普通車指定席を利用する団体旅客が55人で構成される普通団体の場合、53人分の運賃と特急料金が収受される。
- ウ. 新幹線で品川駅（東京都区内の駅）から新大阪駅まで、新大阪駅から東海道本線と大阪環状線を乗り継いで天王寺駅（大阪市内の駅）まで乗車する場合、この運賃は、東京駅から大阪駅までの営業キロを用いて計算する。
- エ. 大人1人が幼児1人を随伴し、2つの席を使用して特急列車の普通車指定席を利用する場合、「大人1人分の乗車券、大人1人分の指定席特急券、小児1人分の指定席特急券」が必要である。

(2) 次の行程で大人1人が乗車するとき、普通乗車券の運賃の計算に関する記述として、正しいものを選びなさい。

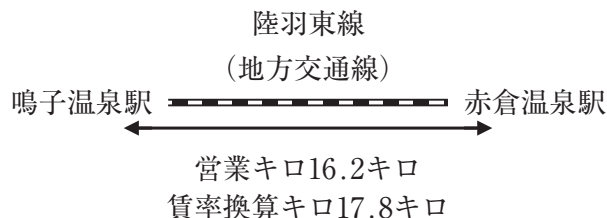
(注) 仙台駅～鳴子温泉駅間、鳴子温泉駅～赤倉温泉駅間では途中下車はしないものとする。

〈行程〉

8月1日 仙台駅から古川駅まで新幹線に乗車
古川駅から鳴子温泉駅まで普通列車に乗車
鳴子温泉に1泊



8月2日 鳴子温泉駅から赤倉温泉駅まで普通列車に乗車

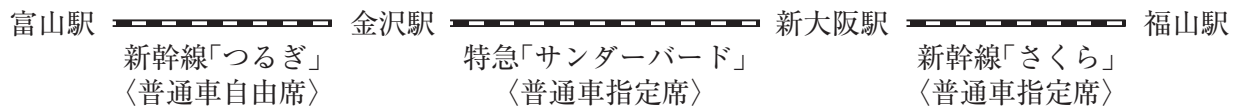


- ア. 運賃は、「43.2キロ+39.1キロ=82.3キロ」を使用して計算した額と、「16.2キロ」を使用して計算した額を合計した額となる。
- イ. 運賃は、「43.2キロ+35.5キロ=78.7キロ」を使用して計算した額と、「16.2キロ」を使用して計算した額を合計した額となる。
- ウ. 運賃は、「43.2キロ+39.1キロ+17.8キロ=100.1キロ」を使用して計算した額となる。
- エ. 運賃は、「43.2キロ+35.5キロ+16.2キロ=94.9キロ」を使用して計算した額となる。

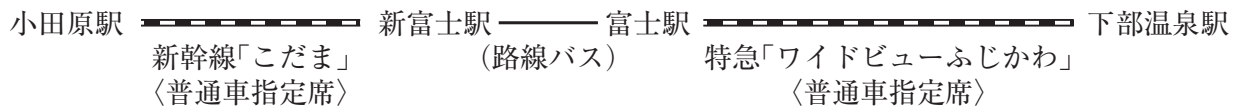
(3) 乗継割引に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) いずれも最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。

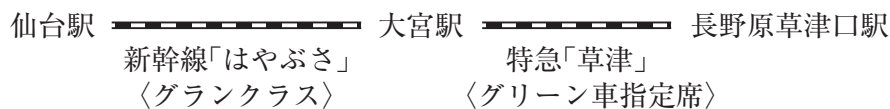
ア. 「サンダーバード」の特急料金に乗継割引が適用される。



イ. 乗継割引が適用される列車はない。



ウ. 「草津」の特急料金に乗継割引が適用される。



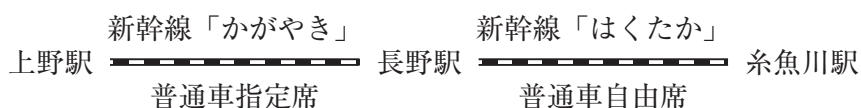
エ. 「いしづち」の特急料金に乗継割引が適用される。



(4) 閑散期に次の行程で乗車する大人1人の新幹線の特急料金について、資料に基づき、正しいものを選びなさい。

(注) 長野駅では新幹線の改札口を出ないで、最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとする。

〈行程〉(閑散期)



〈資料〉

北陸新幹線〔かがやき〕〔はくたか〕普通車指定席に乗車する場合の特急料金(通常期)

| | | |
|--------|--------|-----|
| 上野 | | |
| 3,990円 | 長野 | |
| 5,390円 | 3,010円 | 糸魚川 |


ア. $5,390円 - 520円 =$ 4,870円

イ. $5,390円 - 200円 =$ 5,190円

ウ. $(3,990円 - 200円) + (3,010円 - 520円) =$ 6,280円

エ. $(3,990円 - 200円) + (3,010円 - 200円) =$ 6,600円

(5) 次のJR券に関する記述について、資料に基づき、正しいものを選びなさい。

| | |
|-------------------------|--|
| 乗車券・B特急券 ***** | |
| 乗車券 | 6月1日まで有効 |
| 和歌山 → | 紀伊勝浦 |
| 5月31日(12:15発) | (15:03着) C62 |
| くろしお9号 | 4号車 3番A席  |
| ¥5,600 内訳：乗3,350・特2,250 | |
| 29. xx. xx | 見本 |

〈資料〉

- 和歌山駅から紀伊勝浦駅までの営業キロは185.8キロ
- 和歌山駅から串本駅までの営業キロは159.1キロ（串本駅は和歌山駅～紀伊勝浦駅の途中駅である。）

- ア. このJR券は、4月30日10時から発売される。
- イ. 旅客の都合により、串本駅で旅行中止したとき、払いもどしされる額はない。
- ウ. 旅客の都合により、このJR券を5月30日に払いもどすとき、払いもどしの手数料の合計は670円である。
- エ. 旅客の都合により、この列車に乗り遅れた場合、乗車列車の変更を申し出れば、乗車日の5月31日及び翌日の6月1日に限り、和歌山駅を出発する他の特急列車の普通車自由席に乗車する取扱いを受けることができる。

〈以上〉